6　本時の目標と展開（授業①　５年１組）

（１）本時の授業構想図

本時のねらい	「通分」の意味について理解する。

↑

振り返り	「分母がちがうときは，分母をそろえれば分数の大きさを比べられる。」 「分母がちがう分数の大きさを比べるときは，通分をすればいい。」

↑

本時のバージョンアップされた考え	いくつかの分数を通分するには，分母の公倍数を見つけて，それを分母とした分数になおす。

↑

本時の「しなやかに考える子ども」の姿	「分母をそろえると分子の大きさで比べることができそうだ。」 「4と5の公倍数を分母にすると，分母をそろえることができる。」
しなやかさが欠ける子どもへの支援	$\frac{3}{4}$ と大きさの等しい分数，$\frac{4}{5}$ と大きさの等しい分数をそれぞれつくり，その中から分母が同じ分数を見つけさせる。

↑

ギャップを乗り越えさせるための算数的活動	大きさの等しい分数のつくり方をもとにして，分母が同じ分数を見つける。 面積図をもとにして通分するということは，単位分数をそろえることであることを確認する。

↑

ギャップ （違いやつまずき）	分母がちがうので分数の大きさを比べられない。 分母をそろえるという意味が分からない。

↑

既習	大きさの等しい分数をつくる。

↑

問題	$\frac{3}{4}$ と $\frac{4}{5}$ では，どちらが大きいでしょうか。

評価規準	分数の性質を使った，分数の大きさの比べ方を理解している。（知識・理解）	
評価の具体	十分満足と判断される状況	努力を要する状況の児童への手立て
	最小公倍数で通分すると，分母が一番小さい分数になおして分数の大きさを比べることができることを理解している。	もとの分数の分母の公倍数を使うと，分母をそろえることができるので，分子の大きさで比べることができることに気付かせる。